

1 題材名

『遠浅の干潟から工業地帯と大規模住宅団地へ』

～千葉市の沿岸部、中央区、美浜区周辺の地域学習として～

2 授業のねらい

- ①かつて千葉市の海岸部分には、遠浅の海岸と干潟が広がっていて、現状からは想像もできない風景がありました。千葉市の沿岸部の中央区・美浜区を意識した地域学習です。
- ②「今自分が住んでいるところ（通っている学校）は、昔は海の底だった」と聞いても驚く生徒は多くないでしょう。海岸と人々の暮らしの関係が大きく変化してきたことを確認します。自宅の付近や学区周辺についての変化を調べることで、学習意欲を高めます。
- ③「海岸の変化と千葉市の発展のつながり」を考えることから、郷土(地元)の果たしてきた役割を見出して地元への関心を高める、という学習です。

3 学習指導要領の項目、指導計画上の位置付け

◇総合的な学習において、それぞれの目標へ向けた学習の一助としての地域学習

◇1時間扱い

◇1年生 学区探検、地域訪問などの事前学習として

2年生 校外学習へのとりかかり、下準備として

3年生 修学旅行先での学習へ向けた予備知識として

4 予想される授業の流れと指導資料

- ①遠浅・干潟が広がっていた頃の海と海岸部の利用の仕方と、当時の海岸線の位置を写真資料や古地図等から確認します。
* 漁業（魚類、貝類）、のり養殖・・・ * 潮干狩り、海水浴、保養地・・・ * 重要な交通路(大動脈)・・・
- ②現在の海岸部（埋め立て地）の利用の仕方と、海岸線の位置を写真資料や地図等で確認します。
* 工業地帯・工場群、食品コンビナート・・・ * 大規模住宅団地、各種商業施設・・・
* 公共施設、公園や緑地、スポーツ・レジャー関連施設・・・
＜①、②とも全体で確認しながら、個人でワークシートに記入します＞
- ③自宅付近や学区周辺についての変化を調べます。
* 埋め立ての時期やその頃の住民の反応
* 両親や祖父母、近隣住人などの話の聞き取りや、当時の子供たちの作文からの読み取り
＜小グループで確認しながら共有します＞
- ④「海＝生業」と「交通の大動脈」だった時代から、海と海岸の変化によって失ったもの、変わりながらつなげているもの、新しく生まれたもの、を発表します。そこから「海との関わりで、この先のまちづくりをどうしていけるか？」を考えて自分の言葉で表現します。
＜個人でワークシートに記入します。その後数名が発表＞

＜活用するおもな資料＞

◎当館特別展『海と千葉』図録

◎当館特別展『高度成長期の千葉』図録

◎『千葉市の海辺』千葉市教育委員会

◎『伸びゆく千葉市』千葉市教育委員会 など

5 指導上の留意点、その他

- ◇学校や住宅団地(マンション等)の建設に関わる逸話等があれば、ぜひ参考にさせていただきます。
- ◇映像資料や写真など目で見て確認できる資料を多く用いることで、海岸部の変化が実感できたうえで思考や表現をする活動を行うことができるとよいです。
- ◇ご家族や近隣の方などから、関連する話を事前に話を聞いておくよう生徒にお伝えいただくのも良いと思われます。